島根県神社庁報

第 371号
島根県神社庁
〒699－0701
出雲市大社町杵築東286
TEL　0853-53-2149
FAX　0853-53-2582

島根県神社庁設立80周年記念
第73回　島根県神社関係者大会

９月９日 於 出雲市　大社文化プレイス　うらら館



聖 寿 万 歳

宣　言

本年一月六日に発生した島根県東部を震源とする地震は、震源地を中心に甚大な被害をもたらした。被災神社及び被災者の方々に対し、衷心よりお見舞い申し上げる。

天皇皇后両陛下におかせられては、ご機嫌麗しく日々ご精励遊ばされ、洵に慶賀に堪えない。国民斉しく大御代の長久と皇室の弥栄を祈念申し上げるところである。

また、本宗と仰ぐ神宮の御事については、第六十三回式年遷宮の諸祭儀が順次粛々と執り進められていることはご同慶の至りである。我国の伝統文化を代表する重儀が滞りなく斎行されるよう奉賛の誠を捧げるものである。

本年、島根県神社庁は設立八十周年を迎え、戦後の混乱の中、神社の護持に尽瘁せられた神職及び神社関係者に対し、報恩感謝の誠を捧げるとともに、神社庁設立にかけた先人諸賢の思いを今一度想起し、大道の恢弘と発展、斯界の隆盛に努めなければならない。

本日、ここに集う我々は互いに力を結集し、一丸となって次の目標実現に向けて努力していきたい。

一、皇室敬慕の念の喚起につとめる。
一、第六十三回式年遷宮に向けて神宮奉賛の誠を捧げ、神宮大麻の頒布推進につとめる。
一、祭祀の厳修と神社の尊厳護持に万全を期する。
一、護國の英霊に慰霊と感謝の誠を捧げ、誇りある国づくりにつとめる。
一、家庭祭祀の振興と、未来に生きる日本人の心の教育につとめる。

右、宣言する

令和八年九月九日

島根県神社庁設立八十周年記念　第七十三回島根県神社係者大会

目　次

第七十三回 島根県神社関係者大会 …… 1
第七十三回 島根県神社関係者大会報告 …… 2
国民精神昂揚研修会報告 …… 6
権正階・直階・階位検定講習会を終えて …… 8
奉納品 …… 10
氏青定期大会報告 …… 10
大社國學館入学案内 …… 10
神宮大麻暦頒布始奉告祭 …… 11
神職身分昇級 …… 11
神職帰幽 …… 11
庁務日誌 …… 12
神職任免 …… 13
新任神職紹介 …… 13
社☆ガール通信 …… 14
支部だより …… 15

島根県神社庁設立八十周年記念
第七十三回
島根県神社関係者大会報告

総務委員長　齋木正保

第七十三回島根県神社関係者大会が九月九日、出雲市の大社文化プレイスうらら館を会場に小雨模様の中、県内各地から約六百名が参加して開催された。今年は特に島根県神社庁設立八十周年を記念し、また三年に一度の開催を決めて初の大会開催であった。大会の次第、来賓、表彰については後掲の一覧をご覧いただくとして、ここでは庁長挨拶と記念講演について概要を述べることとする。

忌部正孝庁長は、今年が島根県神社庁設立八十周年にあたることを踏まえ、先輩諸氏のご努力に感謝するとともに我々の使命と役割を再確認し、神職・氏子・総代の一層の団結を呼びかけた。また島根県神社庁では庁務運営の効率化・組織の機能向上を目指し、運営検討委員会・教化委員会組織改編準備委員会を設置し検討を重ねていることを説明し、理解と協力を求めた。



忌部庁長

大会宣言採択の後、休憩をはさんで記念講演に入った。講師は作家の竹田恒泰先生。演題は「日本人の原点が分かる『国体』の授業」。竹田先生は明治天皇の玄孫にあたり、昭和五十年（一九七五年）旧皇族竹田家のお生まれで、慶應義塾大学法学部を卒業後は皇学館大学、慶應義塾大学の非常勤講師として「天皇と憲法」「日本国家論」を講義。また作家として平成十八年には第十五回山本七平賞を、令和三年には第二十一回正論新風賞を受賞される一方、メディア出演も多く、「そこまで言って委員会（読売テレビ）」ではレギュラーとして歯に衣着せぬ物言いで好評を博しておられる。

講師紹介が終わり、溌溂とした登場曲が場内に響くとどよめきが起こり、大きな拍手のなか竹田先生の登場。テレビやユーチューブで画面越しに幾度となく拝見してきた先生のお姿に、本日の講演への期待が一気に高まった。

先生は演題にある『国体』という言葉の意味を、近代日本でどう使われたのか、戦前・戦後で意味がどう変わったのか、分かりやすくユーモアを加えながら説明された。また日本人の原点を理解するためには神話・天皇制・教育勅語・近代国家形成までを知る必要があると説かれた。そして、日本は王朝が交代していない国家の中で世界最古の歴史を持つが、なぜ二千年以上も存続することができたのか、

なぜ敗戦から立ち直り再び世界に類のない発展を遂げることができたのかという観点を提示された。その答えとして、それは国体（国のかたち）を守り続けたからであると語られた。

淀みない話に引き込まれ長く聴いていたかったが、時間が来て先生は惜しみない拍手に送られ次の公演地に向かって会場を後にされた。閉会の頃には朝方の雨もすっかり上がっていた。大会にあたり前日から会場入りし準備に尽力された担当の能義・安来・仁多支部の皆様に厚くお礼申し上げる。



竹田恒泰先生

大会次第

【受　付】　九時～十時

【式　典】　十時～

一、開会の辞
二、神宮並びに県内各奉務神社を遙拝
三、国歌斉唱（二回）
四、敬神生活の綱領唱和
五、物故神職並びに物故神社関係者に対し黙祷
六、神社庁長挨拶
七、総代会長挨拶
八、顕　彰
〈表彰の部〉
神宮大宮司表彰・神社庁長表彰
〈感謝状の部〉
本庁統理感謝状・神社庁長感謝状
九、来賓祝辞
来賓紹介及び祝電披露
十、受章者代表謝辞
十一、宣言案朗読・採択

【記念講演】　十一時三十分～

十二、講演講師　作家　竹田恒泰先生
演題『日本人の原点がわかる「国体」の授業』
十三、聖寿万歳
十四、閉会の辞
（解　散）　十三時十分頃

大会来賓

●神社本庁統理様ご代理
神社本庁理事・鳥取県神社庁長　米原　尊仁様
●神宮大宮司様ご代理
神宮祢宜　橋本　敏輝様
●出雲市長　飯塚　俊之様
●広島県神社庁長様ご代理
副庁長　渡部　公麿様
●岡山県神社庁長様ご代理
副庁長　物部　明徳様
●山口県神社庁長　黒神　直大様
●神道政治連盟島根県本部長　諏訪邊泰敬様
●日本会議島根会長　倉井　毅様
●神道政治連盟島根県本部
出雲市議会議員連絡協議会会長　宮本　享様
●島根県神社庁顧問　青木　義興様
●島根県神社庁顧問　角河　和幸様

受賞者一覧

（敬称略）

【神宮大宮司表彰】

・頒布優秀支部

仁多支部　仁多支部

・頒布優良奉仕者

仁多支部　熊野大社　宮司　熊野　高裕
仁多支部　三澤神社　宮司　陶山　浩正
飯石支部　天満宮　宮司　池田　匡史
浜田支部　濱田護國神社　宮司　牛尾　充
益田支部　柿本神社　宮司　綾部　常美
八束支部　八幡宮　宮司　中島　久晴

【神社庁長表彰】

・神職功績者表彰

松江支部　稲荷神社　祢宜　渡部加津子
仁多支部　八幡宮　宮司　阿部　等
簸川支部　御碕神社　宮司　吉岡　久
出雲支部　熊野神社　宮司　後藤　忠夫
益田支部　豊田神社　宮司　難波　光惠
八束支部　八幡宮　宮司　宮﨑　安則

・神職功労者表彰

益田支部　染羽天石勝神社　宮司　小川　喜直

・氏子功労者表彰

松江支部　八重垣神社　責任役員　石倉　茂美
布奈保神社　総代　奥村　俊介
天若宮神社　責任役員　福田　義巳
八束支部　高林神社　責任役員　犬山　正博
安来支部　潜戸神社　責任役員　足立　好徳
八幡宮　責任役員　瀬尾　敏三
白山神社　責任役員兼総代　岩田　和美
大原支部　山神神社　責任役員・総代　木村　昭憲
斐伊神社　責任役員・総代　小林　憲司
國魂神社前　責任役員兼総代　落合　武夫
簸川支部　多伎神社　責任役員　岡田　耕一
諏訪神社　責任役員・総代　長瀬　恭次
山辺神社　責任役員　山崎　泰助
〃　責任役員　春木　薫
〃　総代　和田　秀穂
龍神社　責任役員　桑本　巖
〃　総代　別所　豊夫
曽枳能夜神社　元総代長　陰山　昭
大田支部　八幡宮　責任役員　森田　博久
〃　総代長　松本　尚央
那賀支部　本郷八幡宮　責任役員　山田　友春
益田支部　八幡宮　責任役員　佐々木邦夫

八幡宮　責任役員　寺井富士雄
八幡宮　責任役員　野村智賀志
柏原櫻本八幡宮
　元責任役員・奉賛会長　品川　勝典
八幡宮　総代　渡邉恵美子

島前支部

隠岐神社　隠岐神社奉賛会参与
　今木　太

【神社本庁統理感謝状】

益田支部

大元神社　大元神社氏子中
〃　高橋建設株式会社
　代表取締役社長　高橋　宏聡

【島根県神社庁長感謝状】

八束支部

日吉神社　二神　光
〃　二神　静枝
向津神社　武田　民三
〃　土江　幹夫

仁多支部

伊賀武神社　赤名　健司

大田支部

新具蘇姫命神社　丸　祥平

浜田支部

春日神社　養庵　敏弘
〃　益田　裕實
〃　表田　映二
八幡宮　株式会社西部生コン
　代表取締役　倉本　給都
〃　内村神楽同好会
八幡宮　小林　泰久
〃　岩川　清

益田支部

大元神社　池田由岐夫
白岩神社　石川　文夫
八幡宮　青山　静佳
机崎神社　有限会社共同開発
　武田　象吉
染羽天石勝神社
　有限会社　益田自動車板金塗装
〃　小川　尊直
八幡宮　有限会社大広建設
　代表取締役　大畑　嘉浩

熊野松神社　大畑　力
〃　坂本　洋三
　貴智
〃　大畑　修
〃　大畑　晋輔

島前支部

〃　寺井　禮子
宇受賀命神社　竹橋　宏典
　農事組合法人　サンライズうづか
　道前　淳治
由良比女神社　三輪　昌義
〃　大畑　秀人

顕彰規程第四条二号該当者

仁多支部

仁多支部　長妻　和夫

大原支部



国民精神昂揚研修会併三部合同教化会議報告

教化委員　中田宏記

七月二十三日、島根県神社庁において国民精神昂揚研修会が開催された。

今回の研修は三部会の教化実践報告と神社本庁教化実践目標について六十名の県内神職が学んだ。第一講の三部会教化実践報告では左記の通り発表があった。



出雲部会発表

第一講

【出雲部会】

◆**発表者**　簸川支部　三部八幡宮
宮司　糸賀明広
「Ｉターン宮司・未知の世界で奮闘中」

◆**内容**
もともと神職家系ではなく、奥様の実家の神社を守るために、早期退職をして神職となったものの、神社へのお参りが無かった。神社に足を向けてもらうための教化活動を紹介。

◆**実践内容**
・裏山の竹林整備
・算学（数学）を市内小中学校で講義
・神社で寺子屋
・境内で流しそうめん

【石見部会】

◆**発表者**　那賀支部　大麻山神社
祢宜　白須琢朗
「式年大祭におけるクラウドファンディングの活用について」

◆**内容**
氏子数三十一戸で、御鎮座一二五年の記念事業として、向拝修繕を計画。修繕費用を確保するため、クラウドファンディングを活用することを決意。

◆**実践内容**
・実行委員会の設立
・ホームページの開設
・クラウドファンディングの実施

【隠岐部会】

◆**発表者**　島後支部　賀茂那備神社
権祢宜　野津哲志
「過疎地域神社活性化推進施策で活動したその後について」



石見部会発表

◆内容
神社本庁の施策である「過疎地域神社活性化推進施策」による活動補助が終わった後の教化活動。

◆実践内容
・百手祭に参加する子ども（小学五、六年生）の弓役を町外に依頼
・浦安の舞の継続
・地域の大人たちに清掃活動を依頼

第二講は神社本庁教化実践目標について、神社本庁教化広報部香取大信部長より説明があった。

「教化組織の連携による神宮奉賛の強化体制充実に向けて」を主題に

一、第六十三回神宮式年遷宮の意義啓発に向けて教化組織の充実を図り、組織相互の連携による神宮奉賛のための教化活動の展開に努める。

二、君民一体（天皇と国民が心を一つにして国を成立させる）の国柄を明らかにし、地域共同体意識の涵養を図り、神社と地域の活性化に努める。

三、鎮守の森での地域活動を通じて神道の自然観を啓発し、「自然とともに生きる」神道の思想を内外に闡明する。

との教化実践目標をしめされた。

神社本庁教化実践目標は神社庁、支部、神社ごとに達成のための活動内容は違ってくる。特に各神社においてはそれぞれの環境が違うため、各自で各項目達成のための活動を展開していくことが望まれる。例えば次のようなことで達成ができると考える。



香取先生

教化実践目標第一項について
●参宮を奨励し、参宮団に加わる。
●神宮大麻頒布を通じて式年遷宮の意義を氏子崇敬者に伝える。

教化実践目標第二項について
●季刊誌『皇室』の定期購読の勧奨。
●国旗の掲揚
●地域活動や社会活動に積極的に参画し、神社に対する一層の理解を促す。

教化実践目標第三項について
●神社を取り巻く自然、神社のまつりをはじめ、地域の歴史・文化に触れる機会を積極的に提供する。
●青少年を対象とした活動を推進する。

これらのことは神社単位で達成できる一例であるが、それぞれの状況に合う活動を展開していくことが望まれる。

講演終了後は、錦田剛志中国地区教化講師をコーディネーターとして香取部長と共に行った質疑応答で、学校との協力や地域貢献活動、神社（宮司）自体の意識改革が必要であるとか、若い世代をどの様に神社へ向かわせるかなど多数の熱心な意見質問があり、予定時間を超過しての大変有意義な研修となった。

権正階・直階 階位検定講習会を終えて

去る八月八日より約一ヶ月に及ぶ階位検定講習会（前期　権正階甲課程、直階甲課程　後期　権正階乙課程、直階乙課程）が開催された。

九月四日に閉講式を行い、修了生から謝辞が述べられた。

謝辞（前期）

僭越ながら講習生を代表し、御礼のご挨拶を申し上げます。

八月八日に始まった権正階甲課程、直階甲課程の講習は本日終了し、私達権正階十八名、直階十四名全員が無事前期を修了、内権正階二名は全課程を修了することが出来ました。これも忌部庁長様を始め島根県神社庁及び講師先生方のお陰と深く感謝申し上げます。

神社庁の皆様は、私達のために色々とお声がけ下さり、いい講習会になるよう様々にお世話下さいました。また講師の先生方には、祭式に必要な知識、技能はもとより、神道の古典や歴史、現状と未来に至るまで、私達が神職として必要な事を、様々な角度からお教えいただきました。

私の心に特に残っているのは、左には右、和魂には荒魂があるように、全ての事には表と裏があり表裏一体である、という言葉です。須佐之男命の活躍の裏には、打たれた八岐大蛇の立場がある。武甕槌神に破れた建御名方神は、神楽では一番の舞手が舞い、その姿は今も人々の心を掴んで離しません。

「和」をもって尊しとなす、その「和」とは何か、深く考えさせられました。

そして、百聞は一見に如かず、出雲大社への参拝、祭式の習練、講師先生方にいただいた神職あるいは人生の経験に裏打ちされたお言葉の数々は、此処で学ばなければ分からないことばかりで、以前よりも視野が随分広がった気がします。

最後になりましたが、私達が此処にたどり着くまでに、出身府県の神社庁、支部の方々、奉務予定神社、学校や職場、家族、友人そして講習生の皆様にも大変お世話になりました。人の「縁」の大切さを噛み締めつつ、この講習会を人生に生かすことで、私達が受けた様々な恩を、いつかどこかで返せるように、真心を持ってこれからも精進してまいります。

有り難うございました。

令和八年八月二十日

修了生代表　次重　克敏



前期　権正階（甲）・直階（甲）

修了生名簿

権正階（甲）

村川　憲司
次重　克敏
高橋　康雄
藤井　斎行
土屋　千香朱
長谷川　静子
小笠原　俊克
三上　武明
川井　千竜
三田　武二郎
吉山　慎三
朝田　雄真有美
上川　英夫
小田　雄三
村田　真一郎
津川　佳輔
吉原　慶伸

直階（甲）

徳田　義由美
出井　真墨
鳥居　ケイション
古瀬　慶人
神村　美空
後藤　実
神田　明
青戸　規也
大嶋　卓
杉山　晃
神田　直之
二宮　秀人
飯塚　修太朗
寺田　皓

謝辞（後期）

僭越ながら、修了生を代表してお礼のご挨拶をさせていただきます。この度、権正階十五名、直階十名が階位検定講習会の後期課程を修了できましたことを深く感謝申し上げます。

私たちは、年齢も出身地も様々で、県内外から、それぞれの決意をもってこの講習会に参加いたしました。期待と不安の入り混じる中、時には悩んだり、挫けそうになることもありましたが、受講生同士力を合わせて乗り越えることができました。

そしてそれは言うまでもなく、常に温かいお心遣いを下さった島根県神社庁の皆様、厳しさの中にも優しさがあふれ、真剣さの中にも楽しさがあふれるような、熱意と配慮に満ちた御講義をいただきました講師先生方のお蔭です。

また、この講習会を修了された多くの先輩方から、激励やお心遣いをいただきました。全国からこの講習会に参加され、修了された後も後輩たちの応援にいらっしゃる諸先輩方の姿は、この講習会の素晴らしさを物語っていました。

私たちは、神職としての入り口に立ったばかりではございますが、この講習会の修了生として、皆様からいただきましたご厚情に応えられるよう神職として研鑽に励み、それぞれの道を邁進してまいります。今後ともご指導くださいますようお願いいたします。

最後になりましたが、島根県神社庁の益々のご発展と講師先生方をはじめ、お世話になりました皆様の益々のご活躍とご健勝を心よりご祈念申し上げまして、お礼の言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

令和八年九月四日

修了生代表　和田　伸



後期　権正階（乙）・直階（乙）



修了生名簿

権正階（乙）

三村　憲司
土屋　俊夫
吉田　武竜
朝山　千朱
和田　慎二郎
小笠原　真有美
川上　英伸
村田　佳克
小川　武
吉田　静雄
川井　真
藤原　康雄
津川　英雄
藤原　慶輔
川津　雄三

直階（乙）

出田　義徳
神井　真由美
青戸　慶人
寺村　皓太朗
神代　愛実
田嶋　規明
大田　直
飯塚　竜
神田　之
花咲　人

奉納品



令和八年度階位検定講習会講習生一同様からハンディクリーナー二台をご奉納いただきました。厚く御礼申し上げます。

島根県氏子青年協議会定期大会

去る７月11日、第60回島根県氏子青年協議会（会長　福間真吾）定期大会が由來八幡宮氏子青年協議会主管により開催された。



横山理事挨拶



飯南町大しめなわ創作館での研修

大社國學館入学案内

詳細は直接大社國學館までお問い合わせ下さい。

《所在地・照会先電話番号》

大社國學館
〒699-0701　島根県出雲市大社町杵築東283
電話　０８５３－５３－２０２０

《募集人員》

普通課程Ⅱ類（本科生）　15名
同　（選科生）若干名
予　科（別科生）若干名

《入学試験日・内容》

- 第１次　令和９年２月20日（土）
- 第２次　令和９年３月20日（土）
- 第３次　令和９年４月10日（土）

筆記試験（国語・国史・作文）及び面接

《出願手続締切》

- 第１次　令和９年２月15日（月）
- 第２次　令和９年３月15日（月）
- 第３次　令和９年４月５日（月）

神宮大麻暦頒布始奉告祭

去る九月二十五日（金）神社庁神殿において神宮大麻暦頒布始奉告祭が忌部庁長外役員、支部長参列のもと斎行された。

祭典奉仕者

斎主　湯浅晃誠（邑智）
祭員　勝部祐樹（邑智）
奏楽　三浦正典（邑智）
　　植田晃次（邑智）
典儀　牛尾　充（祭祀委員長）





神職身分昇級

二級上　令和八年九月十日付

阿羅波比神社　宮司　立脇　通也（松江）
佐太神社　宮司　朝山　哲（八束）
美保神社　宮司　横山　陽之（八束）
八幡宮　宮司　栗栖　眞樹（益田）

二級　令和八年九月十日付

田原神社　宮司　藤脇　兼三（松江）
八幡宮　宮司　宮廻　郁丸（能義）
安田八幡宮　宮司　長妻　久康（能義）

神職帰幽

大田市温泉津町　八幡宮　宮司　森山　和臣

令和八年九月八日　享年九十四

謹んで哀悼の意を表します。

島根県神社庁長　忌部　正孝

神社フォトギャラリー

神社の社殿、神事・神賑行事、神社を含む四季折々の風景など、様々なお写真を募集します。

真先写し送り先

〒六九九-〇七〇一　出雲市大社町杵築東二八六
島根県神社庁　録事　高見幸子　あて
Eメール　takami@shimane-jinjacho.or.jp

※神社名、神事・行事名や所在地、提供者のお名前を記載の上、お送り下さい。

随時募集中

庁務日誌

（令和８年７月～９月）

7月2日　教化委員会石見部会総代会敬神婦人会合同役員会　於　濱田護國神社（牛尾副庁長出席）
7月8日　神社関係者大会打合会
〃　表彰審査会（総務委員）
7月11日　島根県氏子青年協議会県大会　於　道の駅頓原やまなみ（横山理事出席）
7月15日　教化委員会
〃　第1回教化委員組織改編準備委員会
7月20日　飯石支部神社関係者大会　於　掛合交流センター（小野副庁長出席）
7月23日　教化委員総集会『国民精神昂揚研修会』　於　神社庁（牛尾、小野両副庁長出席）
7月28日　第59回宣揚祭第51回船通山記念碑祭　於　鳥上コミュニティセンター（佐草理事参列）
7月28日～29日　社庁祭式指導者養成研修会　於　本庁（美保神社宮司横山陽之氏、太皷谷稲成神社権宮司河平彬氏参加）
7月30日～31日　神社庁祭式講師研修会　於　國學院大學（森、野上県祭式講師参加）
8月8日～20日　階位検定講習会権正階（甲）18名、直階（甲）14名
8月15日　松江護國神社終戦記念祭　於　松江護國神社（佐草理事参列）
〃　濱田護國神社慰霊大祭大東亜戦争戦歿者追悼慰霊祭並平和祈願祭　於　濱田護國神社（宮能理事参列）
8月21日　監査会・役員会
8月22日　石見部神職研修会　於　濱田護國神社（牛尾副庁長出席）
8月23日～9月4日　階位検定講習会権正階（乙）15名、直階（乙）10名
8月24日～25日　中国地区教化会議　於　ホテルハーベストイン米子（錦田地区教化講師、宮能、中田、佐草県教化委員出席）
8月26日～27日　第70回広島県神社関係者大会　於　広島県立文化芸術ホール（忌部庁長出席）
8月27日～28日　第60回中央研修会　於　法務省大会議室（廣江本庁教誨師出席）
8月29日　第75回神社庁益田支部神社関係者大会　於　島根県芸術文化センターグラントワ（横山理事出席）
9月16日　第49回島根県敬神婦人会石見部会総会　於　太皷谷稲成神社（牛尾副庁長出席）
〃　神宮大宮司御招宴　於　神宮会館（忌部庁長、陶山仁多支部長、平林録事出席）
9月17日　神宮大麻暦頒布始祭　於　内宮神楽殿（忌部庁長、陶山仁多支部長、平林録事参列）
〃　表彰式　於　神宮会館（忌部庁長、陶山仁多支部長、平林録事出席）
〃　秋季頒布推進会議　於　神宮会館（忌部庁長、陶山仁多支部長、平林録事出席）
〃　神社庁長懇話会　於　神宮会館（忌部庁長出席）
〃　伊勢神宮崇敬会地方本部事務局長会　於　神宮会館（平林録事出席）
〃　皇學館令和八年度神社関係者懇談会　於　鳥羽国際ホテル（忌部庁長出席、平林録事随行）
9月18日　神社庁長会　於　神宮会館（忌部庁長出席）
〃　「皇室」普及委員会　於　神宮会館（忌部庁長、平林録事出席）
9月19日　第68回旧八束郡出身戦歿者慰霊祭並八束支部神社関係者大会　於　鹿島文化ホール（佐草理事出席）
9月24日　身分昇級伝達式
〃　正副庁長会
〃　研修所講師会議並階位検定講習会講師会議
9月25日　神宮大麻暦頒布始奉告祭　斎主　湯浅晃誠（邑智支部長）
〃　支部長会
〃　本庁規程表彰審査会（総務委員）
〃　第2回教化委員組織改編準備委員会
9月27日～28日　第69回山口県神社関係者大会　於　山口市民会館（牛尾副庁長出席）

神職任免

（令和８年７月31日～令和８年11月１日）

任免	発令月日	奉職神社名	鎮座地	兼務	職名	氏名
免	8・7・31	新具蘇姫命神社	大田市川合町	本	宮司	白石　陽子
任	8・8・1	〃	〃	兼	宮司	白石　聡史
免	8・8・31	野井神社	大田市長久町	本	宮司	朝倉由貴子
任	8・9・1	〃	〃	本	宮司	朝倉　秀樹
免	8・9・30	狩山八幡宮	雲南市大東町	本	宮司	晴木　茂夫
任	8・10・1	〃	〃	本	宮司	晴木　邦幸
任	8・10・1	佐世神社	〃	兼	祢宜	〃
任	8・10・1	置谷神社	〃	兼	宮司	〃
任	8・10・1	大森神社	雲南市木次町	兼	宮司	〃
任	8・10・1	國玉神社	〃	兼	宮司	〃
任	8・10・1	王守神社	〃	兼	宮司	〃
任	8・10・1	八重垣神社	松江市佐草町	兼	権祢宜	〃
免	8・9・30	大谷神社	仁多郡奥出雲町	兼	宮司	阿部　等
任	8・10・1	〃	〃	兼	宮司	中林　司
免	8・9・30	川跡神社	出雲市荻杼町	本	宮司	山﨑　眞澄
免	8・9・30	〃	〃	兼	権祢宜	山﨑　寧子
任	8・10・1	〃	〃	兼	宮司	松岡　裕二
免	8・9・30	出雲神奈備神社	出雲市里方町	兼	宮司	山﨑　眞澄
任	8・10・1	常世神社	出雲市常松町	本	祢宜	松岡　亮祐
任	8・10・1	〃	〃	本	権祢宜	松岡　祐子
任	8・10・1	厳島神社	出雲市八島町	兼	祢宜	松岡　亮祐
任	8・10・1	〃	〃	兼	権祢宜	松岡　祐子
任	8・10・1	惠比須神社	出雲市江田町	兼	祢宜	松岡　亮祐
任	8・10・1	乙見神社	出雲市大社町	兼	祢宜	松岡　亮祐
任	8・10・1	〃	〃	兼	権祢宜	松岡　祐子

任	8・10・1	八重山神社	雲南市掛合町	兼	宮司	春日　親典
任	8・10・1	三原八幡宮	邑智郡川本町	本	祢宜	湯浅　敬翔
任	8・10・10	八幡宮	大田市温泉津町	兼	宮司	牛尾　充
免	8・10・31	稲荷神社	松江市寺町	本	祢宜	長谷川いずみ
任	8・11・1	〃	〃	本	祢宜	長谷川芹香
免	8・10・31	厳島神社	江津市後地町	兼	宮司	宮能　壮充
任	8・11・1	〃	〃	兼	宮司	河野　正行
任	8・11・1	鞆前神社	出雲市坂浦町	兼	祢宜	持田金次郎
任	8・11・1	石上神社	出雲市塩津町	兼	祢宜	〃
任	8・11・1	船守神社	〃	兼	祢宜	〃
任	8・11・1	韓竈神社	出雲市唐川町	兼	祢宜	〃
任	8・11・1	石上神社	出雲市釜浦町	兼	祢宜	〃
任	8・11・1	諏訪神社	出雲市別所町	兼	祢宜	〃
任	8・11・1	垂水神社	出雲市河下町	兼	祢宜	〃
任	8・11・1	奥宇賀神社	出雲市奥宇賀町	兼	祢宜	〃

新任神職紹介



能美（のうみ）聡見（さとみ）

〔生年月日〕昭和五十五年十一月十八日
〔住所〕広島県廿日市市
〔奉職神社〕指月神社　宮司
〔就任年月日〕令和七年五月二十日
〔特技・趣味〕茶道、華道、書道、ピアノ、猫吸い、海外旅行
〔ひとこと〕十七年前に直階を取得して以来、仕事が休みで時間が取れる際は宮司の父を手伝っていましたが、七年間ほど仕事で海外に住んでいました。
父の病気をきっかけに二年前に帰国しましたが、闘病の末昨年父が帰幽してからはもっと色々教えてもらえば良かったと後悔しています。氏子の皆さんに支えていただきながら、自分にできることを一生懸命努め、神社と伝統を守っていきたいと思います。

社☆ガール通信

大土地荒神社例大祭で奉納神楽を見物

大土地荒神社（島根県出雲市大社町杵築西２４２５）で行われる『大土地神楽』は、江戸時代後期頃まで大土地荒神社の神主によって舞われていましたが、以降は氏子達によって舞われ、三百年以上途絶えることなく昔ながらの形で受け継がれ現在に至っており、お囃子はスピーディーで独特です。また能舞の要素もある舞いも残っており、腰に「まくら」を背負った上に衣装を着けるという独特な容姿となっています。昭和60年「島根県無形民俗文化財」に、平成17年には国の「重要無形民俗文化財」に指定されています。

大土地荒神社には駐車場が無いため、集合場所から徒歩で向かいました。例祭のため前面の門扉が開かれ、提灯や幟など、すべてに厳かな雰囲気があります。例大祭に奉納神楽を見物するのは初めての人が多く、みんなワクワクして開始を待ちました。

大土地荒神社の例大祭は前夜祭と本祭があり、それぞれ10月下旬の金曜と土曜の晩に斎行されます。奉納神楽は二夜連続。18時から翌朝の３時頃まで夜通し行われます。今回、社☆ガールは五演目を見ることにしました。

（一）塩清目　浅葱色の袴を履いた舞手が一人、大御幣を持ち、東・西・南・北・中央・黄竜の六方を塩の力で清めるために舞います。舞座がどんどん清められていきます。



塩清目



小恵比寿

（二）悪切　舞い方が剣を器用にくるくると両手で回しながら、塩・洗米・剣で悪を鎮める為に舞うものです。終盤になるにつれ悪切の舞は激しくなり、若い舞手にも迫力、凄みを感じます。本当に汗が飛び散る勢いでした。

（三）神降し　七座神事の一つであり、清めた舞座へ神様に降りてきていただくために舞うものです。斎主に扮した舞手が祝詞を唱え、神官とともにひれ伏すと天井から降ろされた依り代が前後に激しく揺さぶられ、見物席の頭上にまで来ます。舞座だけでなく見物席も一体となり神の降臨を迎えていると感じました。

(四)莫産舞、(五)小恵比寿　莫産舞も七座神事の一つであり、神様の座られる御座を清めるために舞われます。続けて舞われた小恵比寿も、どちらも主役は神楽デビューと思われるお子さんです。莫産舞の下照姫役のお子さんと、「はぁ～、釣った！釣った！」と繰り返し言う小恵比寿役のお子さんが本当に可愛かったです。

こうして大土地神楽は子どもたちにもしっかり引き継がれていくのだなと感じました。



集合写真

支部だより

「第六十八回旧八束郡出身戦没者慰霊祭並びに八束支部神社関係者大会」

八束支部　美保神社　権祢宜　横山直正

島根県神社庁八束支部（秦崇弘支部長）及び同神社総代会（犬山正博会長）は、令和八年九月十九日、松江市鹿島町の鹿島文化ホールにおいて、第六十八回旧八束郡出身戦没者慰霊祭並びに八束支部神社関係者大会を開催いたしました。



慰霊祭

午後一時三十分からの戦没者慰霊祭には、神社関係者、来賓、遺族会の皆様、約二〇〇名の御参列のもと、旧八束郡出身戦没者二千四百八十八柱の御霊に慰霊と感謝の誠を捧げ、総代会長の祭詞奏上、来賓・遺族会の玉串拝礼等が斎行されました。

続いて午後二時四十分から行われた神社関係者大会では、敬神生活の綱領唱和、国歌斉唱、神宮遙拝に続き、秦支部長の挨拶、神社功労者の表彰、来賓祝辞が行われました。支部長挨拶では、第六十三



支部長挨拶

回神宮式年遷宮、島根県神社庁設立八十周年、氏子減少に伴う氏神神社の護持運営等について述べられました。その後、八束支部第一部会からは、福間治氏による「美保関地区における風習と現状について」と題した意見発表が行われました。数年間の役目を通じて感じた風習を続けることの苦労と大切さや、各神社において行われている風習は日本人として決してなくしてはならないとの意見が述べられました。そののち、大会宣言の採択、聖寿万歳が行われました。



意見発表　福間　治氏

休憩ののち午後三時四十分からは、山陰ケーブルビジョン株式会社ディレクターの大西友子氏を講師に迎え、「小泉セツの物語と朝ドラ『ばけばけ』」と題した講演が行われました。ＮＨＫ『ばけばけ』に資料・情報提供をされた立場から、史実とドラマの共通点・相違点や、小泉八雲が残した敬神の念や祈りの心について講演をされました。最後に閉会の辞をもって、盛会のうちに大会を終了いたしました。



講演　大西友子氏

編集後記

去年は米の集荷業者が高額の概算金を農家に支払ったため米価が高騰し、店頭に米が少なくなった時期があった。今年は概算金が大幅に値下げされて価格は下落し、去年収穫された米より安い新米も売られている。政府は去年放出した備蓄米を買い戻すという。一年であまりにも大きな価格と流通量の差。農家の中には、こんなことなら以前の食管制度の方がましだと言う人さえいる。生産者も消費者もともに求めているのは安定した食糧需給だ。▼去年の参院選に際して崇敬者から聞いた「米は神饌の第一なのに、ないがしろにされている」という意見が忘れられない。米作をはじめとする農業には、米の不安定な需給環境、下がる一方の食糧自給率、後継者不足など大きな課題が山積している。▼神社で豊作を祈り、恵みに感謝することを大切にするのは勿論だが、神社が地域社会の中で果たすべき役割の中には、社会問題に対する明確な見解を示すことも含まれるのではないか。そのためには国内だけでなく海外の様々な事情も考慮しなければならないだろう。それでも、旗幟を鮮明にせよと誰かに迫られる前に、何か手を打った方がいいのではないか。▼それにしても、どうすれば日本の農業は改善されるのだろうか。新米を味わいながら箸が止まり、考え込んでしまった。（鳥）

島根県神社庁報〈第三七十一号〉
発行日　令和八年十一月二十日
発行者　島根県神社庁
編　集　広報委員会
委員長　陶山　浩正　委　員　鳥居　正嗣
副委員長　鳥屋尾　浩　委　員　江角　恵
委　員　石崎　彰矩